



「社会保障の解体は許さない！介護保険制度の抜本改善を！！」

STOP！介護改悪 介護ウェーブ2014推進ニュース -介護の“Big Wave”を広げよう！-

北海道の「あつたかトナ介護くん」

各地の介護ウェーブ～ほほ、お便りをいただいた順に掲載しています

山梨

山梨民医連介護ウェーブは、11月11日の「介護の日」にあわせ、「介護保険制度の改善」「介護従事者の処遇改善」を求める街頭宣伝行動を甲府駅南口で行いました。介護職員を中心に約40人が参加し、横断幕やのぼりを掲げ、ティッシュやチラシを配りながら署名協力を呼びかけ91筆集めました。

リレートークでは、介護職員が次々とマイクを握り、介護福祉士やケアマネジャーの立場から、医療・介護総合法の成立により介護保険制度開始以来の大きな見直しで、「要支援者の訪問介護、デ



イサービスの縮小・打ち切り」「利用料の値上げ」「特養から要介護1・2を原則排除」「施設の費用負担軽減制度の縮小」などが行われたら、年金生活をしている利用者さんはサービスを減らすことからサービスを受けられなくなる現状を、自ら関わった事例で紹介しました。また、この日行われた事務基礎研修に参加した一年目の事務職員10人も行動に参加し、元気に道行く人々に署名への協力を呼びかけました。

現在、介護改善署名に取り組んでいます。また、全日本民医連作成の「いま介護が危ない」チラシを各事業所に配布しています。ぜひ学習をしていただき署名活動に取り組みましょう。

リレートークでケアマネジャーからの訴え

今回の改正で、利用料の引き上げも検討されています。私の利用者さんは「長生きはしたいけどお金がないから出来ない」「経済的な後ろ盾がなければ、安心して生活することは出来ないよ」と話されていました。確かにその通りだと思います。介護保険の利用料金が所得に応じて1割負担から2割負担になる事が検討されていますが、そうした場合、現状のサービス利用を継続することが難しく、やむを得ずサービスを削るしかなくなってしまいます。今でも、寝たきりの妻の介護をしている夫に「お父さんも疲れているからヘルパーさんに手伝ってもらいましょう」と話を進めても「これ以上お金がかかるなら俺が頑張るからいい」と断られてしまします。いつ夫が倒れてしまわないか、とても心配です。利用料金の引き上げが行われれば、さらにサービス利用の抑制につながり、介護者が先に倒れてしまう事態が増えてしまう危険があります。

ケアマネジャーの仕事は、利用者さんが自立した生活が続けられるように支援していくことです。その要の介護保険制度がお金がなくとも、安心して生活ができる制度になるように、皆さんと一緒に考えて行きたいと思います。（山梨民医連介護ウェーブ推進NEWS NO.1より）



北海道 オホーツク勤医協「介護の日」の取組みも無事に終わりました。介護ウェーブ推進委員9名が参加。今年の目玉は「あつたかトナ介護くん」と新登場「あつたかサンタくん」、ゆるきやらブームにしっかりと便乗しました。サンタが笑顔で署名に導く、署名をしているところにトナカイが署名付きティッシュを渡す。見事な連携で市への要請署名130筆を集めることができました。健康チェックも35名受け付けました。

介護の課題に多くの方が共感してくれます。「娘がグループホームに勤めてい





るが、大変そうだ」「ようやく一人介護を終えたら、また一人介護することになった。大変さはわかっている」「介護保険料があまりに高く、北見市に問い合わせたら「介護を使う人が多いから仕方がない」といわれた」署名を通してたくさんの声が寄せられました。また、この日は他の介護事業所からも「このままでは大変だから」と応援がありました。こうした声を大切にして、更に取組みを広げて行きたいと思います。署名は目標3000に対し現在1210筆です。



(オホーツク勤医協月間推進ニュース)

道北勤医協&えみな福祉企画

11月11日、道北勤医協とえみな福祉企画の職員で「介護の日、いっせい街頭宣伝行動」が行われました。かたくりやケアセンター、ぬくもり、えみな福祉企画、本部の職員24人が参加し、安全・安心の医療・介護の実現と介護保険制度の改善、介護従事者の処遇改善を呼びかけました。署名に協力していただいた方からは、「医療費も介護保険料も値上がりしたら大変」

「皆さん、がんばって下さい」と暖かい声を寄せてくれました。署名は短時間で67筆集まりました。(道北社保組織委員会NEWS)



福島

医療と福祉を良くする会津の会（木村宏明会長）では、平成2年から毎年、会津若松市と喜多方市で次年度の市予算編成に要望内容を反映させるため、医療・介護・福祉等の要望事項を8月に提出し、12月議会前に市長をはじめ市関係課との懇談を行っています。



今年の会津若松市との懇談は、11月6日に開催され、各団体から20名が参加しました。8月に市長に提出した52項目の要望に対する回答への再質問を含め、約4時間の意見交換を行いました。今年は特に、「就学援助制度の支給品目の拡充」「福祉灯油の実施」「これからの方の特別養護老人ホームへの入所や要支援認定者のデイサービスの利用等」「南青木・花見ヶ丘地域への移動販売車への補助事業」「子ども達が安心して遊べる公園や屋内遊び場の整備」等について意見交換がされました。要望により、11月から「盲人用血圧計」「視覚障がい者用地上デジタル放送対応ラジオ」の支給が早速実現しています。



喜多方市では10月24日に各団体から18名の参加で約3時間にわたり行われました。喜多方市では、昨年に続き懇談前に要望書への文書回答が出されるなど取り組みが前進しています。今年の懇談では、「70歳未満の国保特定健診の無料化」「喜多方市の介護保険事業の見通し」「就学援助制度の充実」「浴槽や風呂釜が設置していない市営住宅の改善」「安心見守りネットワーク事業の連携強化」「会津医療センターへの産婦人科や小児科の設置」等について意見交換を行いました。

☆医療と福祉を良くする会津の会とは・・・医療生協やコープあいづ、生活と健康を守る会等19団体で構成され、医療生協が事務局団体となっています。(報告：会津医療生協佐藤専務)

「介護がなくなる？」！ ビラ、まだ若干の在庫があります！

全日本民医連事務局に、2014介護ビラは若干の在庫があります。宣伝等で足りなくなったというところがありましたら、ご連絡ください。郵送料だけでお送りできます。

お問い合わせは、「介護ウェーブ推進本部」 事務局：諏佐（すさ）・吉澤

☎ 03-5842-6451 / fax 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp